



第24回上田八木・金融政策サーベイ(2018年12月)の結果について

～全回答者が今回のMPMでの政策変更なし、「無担保コールON金利」の予想も概ね前回並みとなった一方で、利付国債の金利予想については、「2年利付国債」および「10年利付国債」において「上昇」と予想する先が減少。

2018年12月18日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(172先)が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。前回とほぼ同じ内容。
- 「無担保コールON金利」についても、ほぼ前回と同じ見通し。
- 「2年利付国債」「10年利付国債金利」の予想については、「上昇」が減少した一方で、「低下」が若干増加。

【調査の概要】

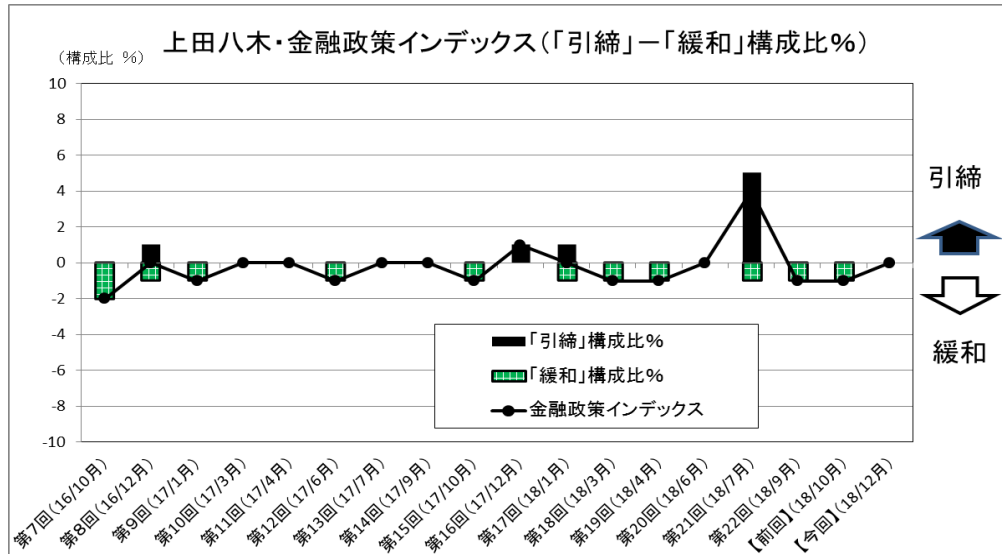
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(192先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2018年12月13日～17日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.6% (回答者数172先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1)日本銀行の次回の金融政策決定会合(12月19日～12月20日)における決定について

全回答者が「不変」の見方。

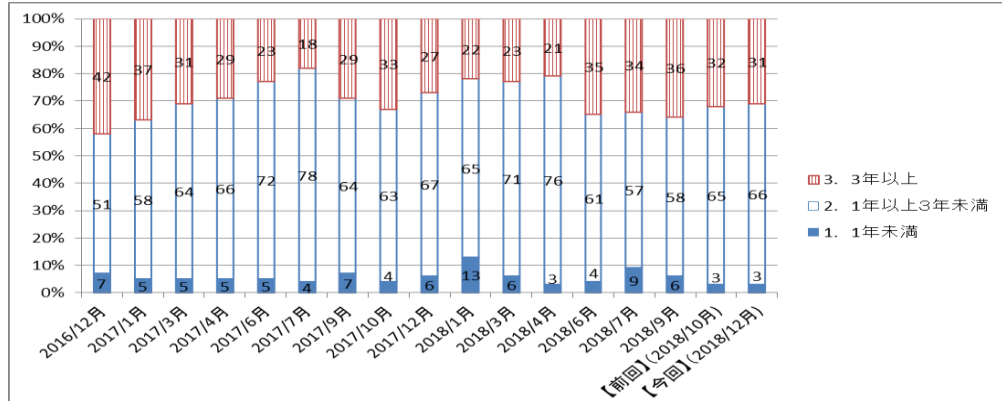
上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「0」(前回は▲1)であった。



(ご参考)

【今回17回目となる追加質問:Q5】現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

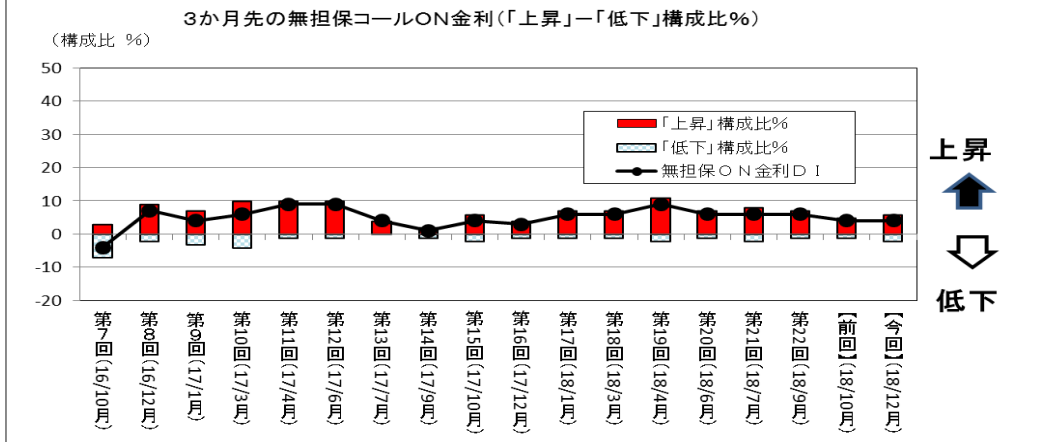
1年以上3年未満と回答する先は66%に増加(前回65%)、3年以上と回答する先が31%に減少(前回32%)。



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。2%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は6%であった。

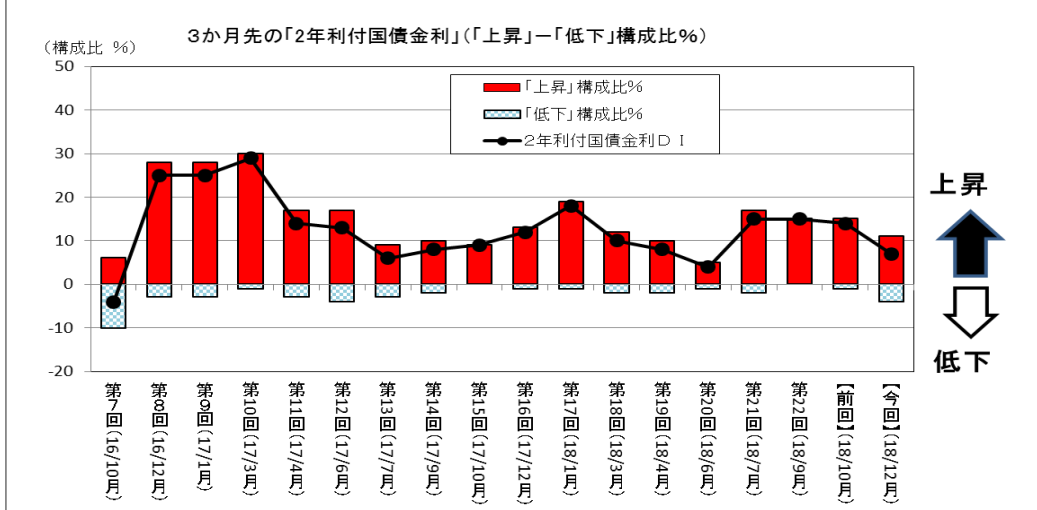
「上昇」とみる先は前回から1%ポイント増加の+6%（前回5%→今回6%）。
 「低下」とみる先は前回から1%ポイント増加の+2%（前回1%→今回2%）。
 「不変」とみる先は▲2%ポイント（前回94%→今回92%）。



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の85%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者4%。「上昇」を予想した先は11%であった。

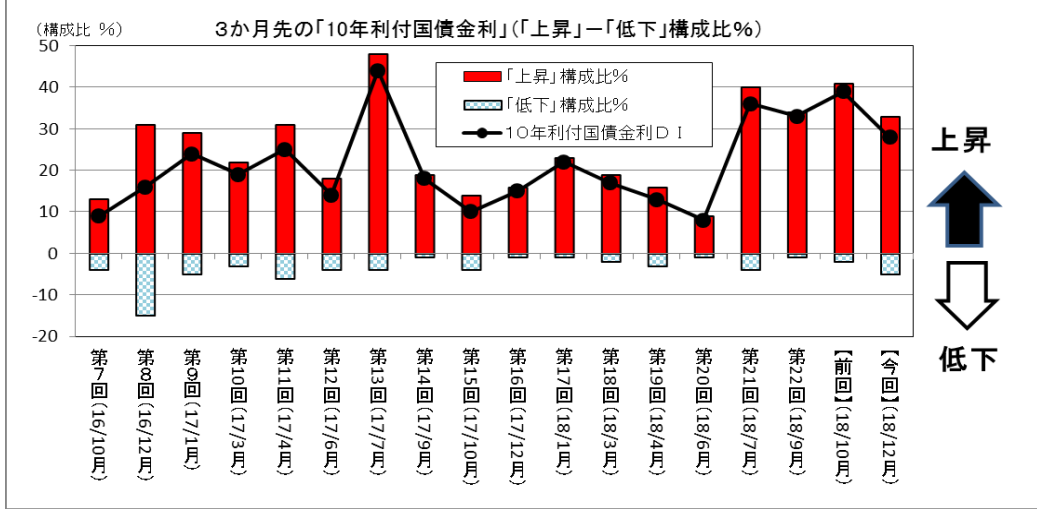
前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント（前回15%→今回11%）。
 「低下」とみる先は+3%ポイント（前回1%→今回4%）。
 「不変」とみる先は+1%ポイント（前回84%→今回85%）。



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の62%が「不変」を予想。5%が「低下」、「上昇」を予想した先は33%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲8%ポイント（前回41%→今回33%）。
 「低下」とみる先は+3%ポイント（前回2%→今回5%）。
 「不変」とみる先は+5%ポイント（前回57%→今回62%）。



【本調査に関する照会先】
 企画部 島本、保元（電話 03-3272-0293）